

- ・研究ノート 横佩 おさむ、小島 紀徳（成蹊大学理工学部物質生命理工学科）

『西オーストラリア乾燥地での表面流出モデルに与える浸透速度式の影響』

<要旨>

乾燥地での大規模な植林地選定には水挙動の把握が必要になる。そこで、西オーストラリア乾燥地に設定した数 km 規模の流域内の水挙動をシミュレーションする表面流出モデルの構築を行なっている。本報告では、浸透速度が異なる 2 地点でのインターレート試験結果から 3 種類の浸透式を導き、式の違いによるモデル内のフィッティングパラメータに対する影響の比較を行なった。

- ・研究ノート 安田八十五、白永梅（関東学院大学大学院経済学研究科）

『レジ袋有料化政策の有効性及びレジ袋需要曲線の構造変化の分析と評価』

<要旨>

本研究の主たる目的は、レジ袋有料化政策による削減効果の有効性を実態調査によって明らかにし、さらに地域全体で有料化を実施するとレジ袋削減効果が高くなり、有効性が飛躍的に増大することをレジ袋の需要曲線が左下方にシフトするという「レジ袋需要曲線の構造変化」で明らかにすることである。

安田は、レジ袋等の容器包装リサイクル問題の課題を容器包装リサイクル費用は一体いくらかかっているのかという問題と容器包装リサイクル費用は本来誰が負担すべきか、という二つの問題に設定し、諸外国の例も参考にして、拡大生産者責任（EPR）を明確にするよう提唱した。本論文ではレジ袋購入率を用いてレジ袋の需要曲線を推定し、レジ袋有料化政策が地域全体で実施されると削減効果が極めて高い結果、すなわち、「レジ袋需要曲線の構造変化」が示されることを明らかにする。